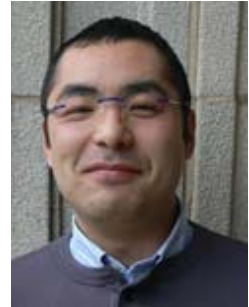

 受賞の言葉

すずき りゅうた

1994年神戸大卒、99年同大学院経営学研究科博士課程修了。博士号（経営学）を取得。静岡県立大学専任講師などを経て、2013年より神戸大大学院経営学研究科教授。71年生まれ。




---

 職場の関わりあいがもたらす行動

神戸大学教授 鈴木竜太

企業のマネジメントにおいては、仲間への支援ややるべきことをきっちりやるような行動も重要だが、自分なりに創意工夫をするような行動も重要である。なぜある職場では仲間を助け、やるべきことをきっちりやり、自律的に職場のメンバーが働いているのに、同じ組織の別の職場ではそうでないのか。この相反する公共的な行動と自律的な行動の双方をいかにしてマネジメントするのか、というのが本書の問題意識である。

この問題意識に対し、本書は組織ではなく職場に着目し、個人目標よりも職場の目標を重視する、あるいは仕事を相互依存的に行うといった職場における関わりあいの強さが、その職場のメンバーの支援や勤勉、そして一見矛盾するように見える個人主義的な創意工夫の行動をもたらすことを実証研究から明らかにした。その上で、職場という組織と個人の間位置する存在が、この関係をもたらす重要な役割を果たしていることを明らかにしている。

本書では、職場のあり方が個人の行動に与える影響について検討したが、経営管理という観点から言えば、その関わりあう職場をいかにして組織はマネジメントできるか、という点も重要なマネジメントの課題である。

経営管理や組織にまつわる課題は時代とともにある。歴史ある本賞の受賞に甘んじることなく、この賞を励みに、そして叱咤激励と受け止め、今後もこの課題をはじめ、研究を進めていきたい。